

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

すべての論述設問に字数制限がなかった。4題のうち、2題がA・B分けであった。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 論述	酵素	生物	問2 酵素Pと化合物Xの結合力が弱まったのであれば、化合物Xの濃度を十分に高くしたときに反応速度は5 μg/分を超えるはずである。 問4 設問文に「実験結果を引用しながら」とあるので、それぞれの酵素の37℃での反応速度をもとに、野生型の酵素活性に対する割合(%)を示して解答する。	標準
II	空欄補充 選択 記述 論述 計算	遺伝 発 生	生物	問1・4 変異原を注入したとき、雄ではZAZ <sup>a</sup> , ZAZ <sup>a</sup> , Z <sup>a</sup> Z <sup>a</sup> の3タイプの核、雌ではZAW, Z <sup>a</sup> Wの2タイプの核があることに注意する。 問6(1) 式(i)の両辺の対数をとる。	やや難
III	空欄補充 選択 論述	植物の反応	生物	問4 種子の分散に果たす鳥の役割、また、ギャップの形成と光条件に着目する。	標準
IV	空欄補充 論述	進 化	生物	問4 空欄ウは、「酵素」「代謝」でも可だろう。 問5 下線部②の成分と、設問文の下にある語群を関連づけて論述する。	やや難

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまな分野から出題されるので、全分野について学習しておこう。
- ・文章読解力を高め、実験問題やデータ考察問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントなどを見抜く能力を高めよう。
- ・問題の分量が多いので、問題を読んだり論述解答を手早く行うための演習を積んでおこう。
- ・遺伝子、遺伝計算は出題頻度が高い。また、生態、進化と系統分類は両方とも出題される頻度が高い。注意して、学習しておこう。